

重要文化的景観

ひねのしょう

おおぎ

のうそんけいかん

日根荘大木の農村景観



中世とつながる日本の原風景、ここに。

大木地区を上空から望む(平成26年撮影)

自然・風土・人がひとつになって 後世に受け継いでいく景観

文化的景観とは

文化的景観とは、地域の気候や風土に合わせて、人々が毎日の暮らしや生業の中で、自然といっしょになって作りあげてきた風景です。平成16年の文化財保護法改正で新たに文化財に位置づけられ、「重要文化的景観は景観法に定める景観計画区域や景観地区内にある文化的景観の中から、特に重要なものを国が重要文化的景観として選定するもの」と規定されています。

※平成27年10月末現在、全国で50件(うち荘園関連は3か所)が選定されています。



大木地区の概要

泉佐野市大木地区は、和歌山県との境をなす和泉山脈^{いずみさんみやく}の豊かな自然に恵まれ、山間部の盆地ならではの地形を活かした伝統的な農村風景が広がっています。

また、「国史跡日根荘遺跡」^{くにしせき ひねのしやういせき}に指定された日根荘由来の寺社やお堂などにより朗々と歴史が伝えられています。

現在の^{いりやまだむら}大木地区は、日根荘の時代には入山田村と呼ばれ、上大木、中大木、下大木は、それぞれ^{ふなぶち}船淵、^{しやうぶ}菖蒲、^{おおき}大木に当たるとされています。

日根荘の領主であった^{くじやう まさもと}九条政基が1501(文亀元)年から4年間滞在し、当時の日根荘に暮らす人たちの様子を詳しく記した『^{まさもとこうたひひきつけ}政基公旅引付』の舞台ともなりました。このような豊かな自然と中世荘園に由来する土地利用のあり方が評価され、平成25年10月17日、大阪府初の国の「重要文化的景観」に選定されました。この景観は、中世まで歴史的変遷をたどることができる貴重なもので、地域の大切な財産として次の世代へ受け継いでいきたいものです。

重要な構成要素

文化的景観を構成するものの中で、特に重要なものを所有者の同意を得た上で「重要な構成要素」に設定します。「日根荘大木の農村景観」では、豊かな自然と日根荘由来の景観を構成する河川や農地、社寺堂、家屋、石積み、道などが設定されています。

重要文化的景観 日根荘大木の農村景観

- 選定範囲 泉佐野市大木地区の一部及び二級河川樫井川の一部
- 選定面積 953.9 ha

受け継がれてきた自然と暮らし



櫻井川



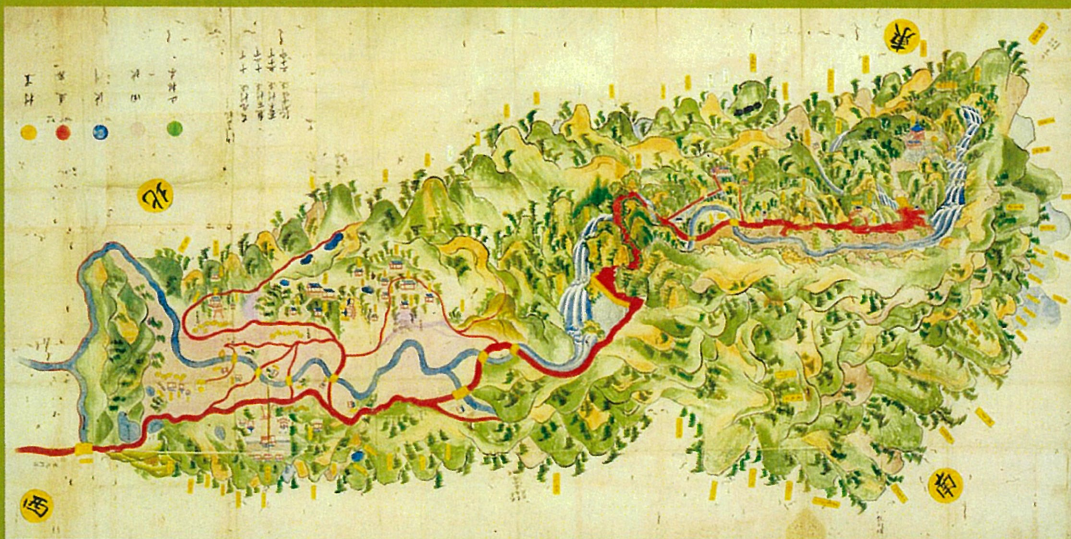
上大木の棚田

人が自然に関わることでつくり出された 景観

中世がしのばれる景観を今に残している大木地区の遠景には、三峰山・みつみねやま・燈明ヶ岳・とうみょうがだけ・高城山など和泉葛城山につながる和泉山脈が、近景には山城の名残りをとどめる雨山・土丸城ノ山の山並みが見られます。また、多様な生態系を保持した環境を維持し、地区を貫流するかしいがわ榎井川には、希少種のアカザやホタル類などの生物、谷筋のため池にはウキゴリが生息しています。このような環境は、今日までの暮らしや生業、信仰といった地区の人々と自然との関わりの中でつくり出され、維持されてきました。

気候風土に合わせて受け継がれてきた 土地利用

山林や農地、集落など、小盆地特有の河岸段丘の地形と榎井川の水流を活かす大木地区の土地利用のあり方は、中世に由来しています。限られた水を最大限に活かすようにつくられた用水路やため池などの水系や和泉と紀伊をつなぐ街道など、その多くは日根荘の時代につくられ、受け継がれてきました。江戸時代の絵図とほぼ同じ状態で受け継がれていることが、数多くの史料や現地調査から明らかにされています。現在の景観は、時代の変化に合わせて受け継がれてきた日根荘由来の貴重な文化的景観なのです。



泉佐野市指定文化財 犬鳴山七宝瀧寺並びに大木村絵図(火走神社蔵)

大木地区の
むかし話





犬鳴山七宝瀧寺



火走神社の「担いだんじり」

暮らしの中に織り込まれている 日根荘の歴史

戦国時代、日根荘の領主九条政基が京都から下向し『政基公旅引付』という日記を記した場所として知られる大木地区。旅引付には、当時の村の様子が詳しく記され、荘園の歴史・文化などを知るための貴重な史料となっています。盆の風流など芸能の舞台であった火走神社、政基も滞在したという修験道の聖地・犬鳴山七宝瀧寺や村人たちが守ってきた寺社堂をはじめ、用水路やため池、粉河街道や水間道など、旅引付に記された歴史あるエピソードの舞台がその機能を維持しながら受け継がれています。

文化的景観を守り受け継ぐ 大木の伝統的な暮らし

河岸段丘の地形を活かすために石積みで築かれた屋敷地や農地、民家は茅葺き、瓦葺きのつし二階や平屋の建物が多く、ツノやキバと呼ばれる仕上げや、破風を重ねる屋根が特徴的です。産業は、伝統的な農業や林業に加え、近代以降は地場産業の織物も行われています。大木地区では現在でも講や町内会、長生会などの組織が活動を続け、火走神社の「担いだんじり」行事をはじめとした歴史ある祭礼なども継承され、いにしえよりの文化が、次世代に伝えられています。

犬鳴山の名の由来にまつわる伝説

さげんてんせつ 義犬伝説

むかしむかしのことです。

ある猟師が愛犬を連れて山に入りました。しばらくして目の前に一頭の大きな鹿が現れました。猟師が狙いを定め、矢を放とうとした瞬間、突然愛犬が吠えたのです。大鹿はざっと森の中へ逃げ去ってしまいました。

猟師は、せつかくの獲物に逃げられたと怒って、愛犬の首をはねてしまいました。すると、どうでしょう。愛犬の首は空中にはね上り、猟師をひと呑みにしようとする上にひそんでいた大蛇に食らいついてかみ殺したのです。命を助けてもらった

猟師は、以降、殺生を止め、飼い主の恩を忘れなかった愛犬のために卒塔婆を建てて供養し、後には不動堂を寄進しました。

この話は都の帝にも聞え、「犬鳴」の名を賜りました。それから後、人々はこの山を「犬鳴山」と呼ぶようになったそうです。



むかしむかしのことです。

大木の村にまぜという大男がおりました。

まぜは、犬鳴のお不動さんの申し子といわれるほどの力持ちで、おまけにお人好しでした。

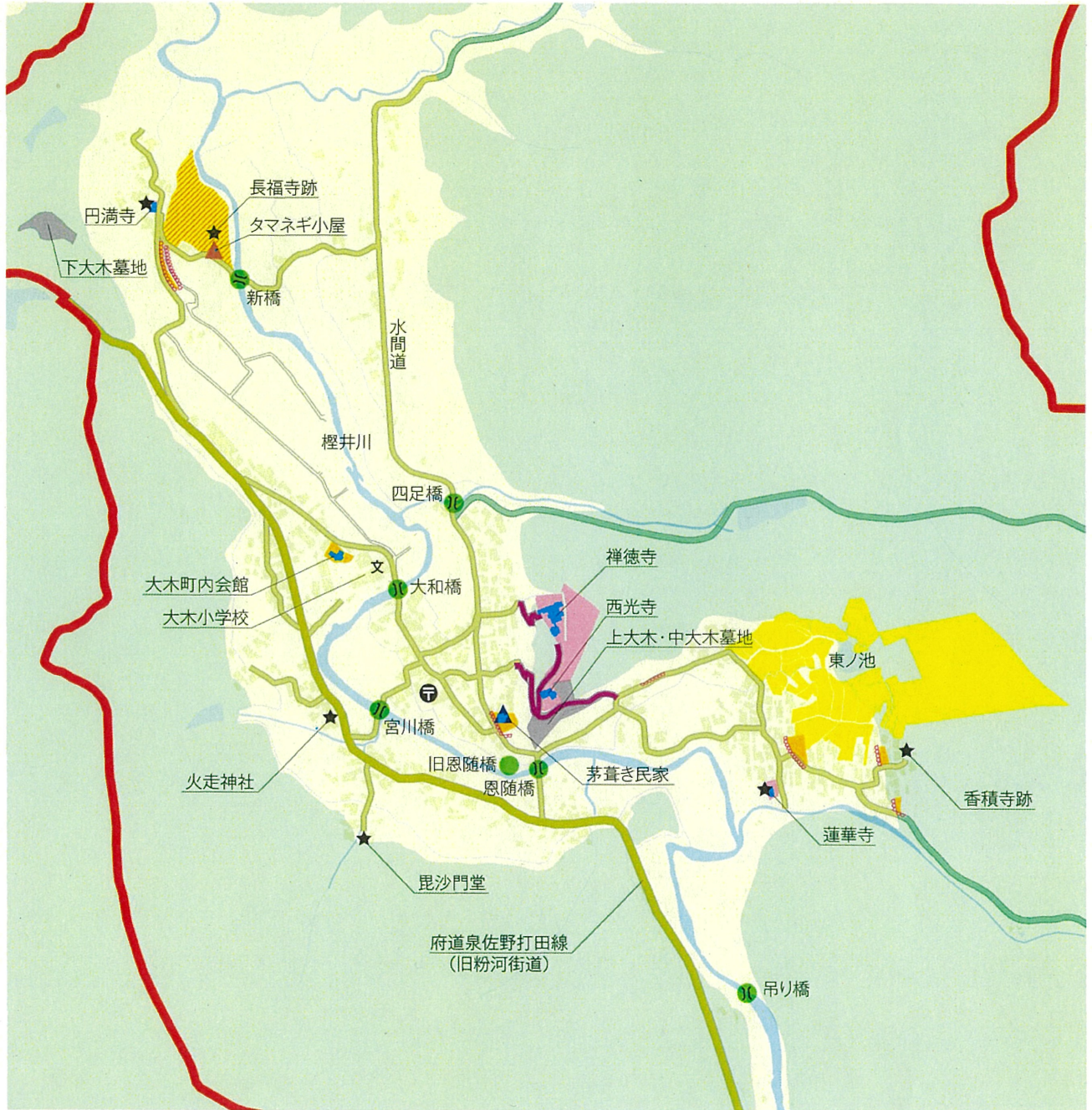
ある日、隣村へ行く道が不便だという村人の話を聞いて、朝飯前のひと仕事だといって、かまどの火かきで土砂をあつという間にかきとって峠を開いてしまいました。ここは今でも「まぜ峠」と呼ばれています。

またあるときは、大水が出た櫻井川で紀州の荒五郎という若者と力比べをしました。二人は轟音を立てて流れる川に入って、それぞれ大きな戸を水の中に立てました。荒五郎は立っているだけで、少しも前に進みません。ところが、まぜは両手で大きな戸を押さえながら、平気な顔をして川上に向かって、のっしのっしと歩いていったそうです。

まぜ 馬瀬のじいさん

大木村の馬瀬に住んでいた力持ちの大男のお話

重要な構成要素位置図



重要な構成要素 凡例

- 重要文化的景観範囲
- 河川
- 建物
- 〰 石積み
- 寺社堂境内地
- ▲ 茅葺き民家
- 道路
- 墓地
- ▲ 農小屋
- 市道
- 屋敷地
- 橋
- 林道
- 農地
- 参道
- 長福寺跡

その他 凡例

- ★ 日根荘遺跡



国史跡日根荘遺跡指定地

名称	所在地
① 日根神社	日根野(東上)
② 慈眼院	日根野(東上)
③ 総福寺	日根野(久ノ木)
④ 新道出牛神	日根野(新道出)
⑤ 野々宮跡	日根野(久ノ木)
⑥ 十二谷池	日根野
⑦ 八重治池	日根野
⑧ 尼津池	日根野
⑨ 井川	日根野
⑩ 火走神社	大木(中大木)
⑪ 円満寺	大木(下大木)
⑫ 毘沙門堂	大木(中大木)
⑬ 蓮華寺	大木(上大木)
⑭ 香積寺跡	大木(上大木)
⑮ 長福寺跡	大木(下大木)
⑯ 土丸・雨山城跡	土丸・熊取町

日根荘は泉佐野市域にあった荘園です。
平成27年10月現在16か所が国史跡となっています。

JRを利用して電車でお越しの方

- 大阪方面から 天王寺駅から阪和線で日根野駅へ
- 和歌山方面から 阪和線で日根野駅へ
- 関西空港から 関西空港線で日根野駅へ

南海を利用して電車でお越しの方

- 大阪方面から なんば駅から南海本線で泉佐野駅へ
- 和歌山方面から 南海本線で泉佐野駅へ
- 関西空港から 空港線で泉佐野駅へ

大木地区へは

- 南海・泉佐野駅もしくはJR・日根野駅から
南海バス「犬鳴山」行き乗車、「下大木」「中大木」「上大木」下車
犬鳴山・犬鳴山温泉へは「犬鳴山」下車

車で高速道路を利用してお越しの方は

- 阪神高速湾岸線 泉佐野北出口もしくは泉佐野南出口
- 阪和自動車道 泉佐野ジャンクションより市街地方面、もしくは上之郷出口

大木地区の集落内には駐車場がありません。
できる限り公共交通機関でお越し下さい。

重要文化的景観「日根荘大木の農村景観」

発行：泉佐野市教育委員会教育総務課 〒598-8550 大阪府泉佐野市市場東1丁目295-3 TEL 072-463-1212(代)
<http://www.city.izumisano.lg.jp>

発行月：平成27年10月